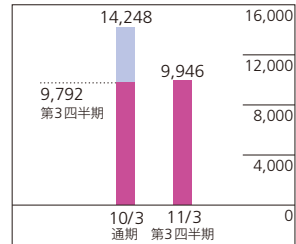


業績ハイライト

トピックス

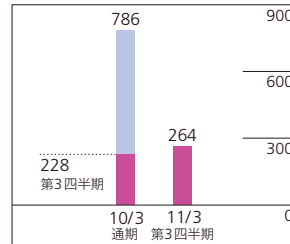
売上高

(単位:百万円)



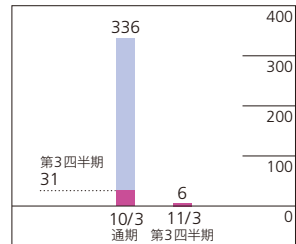
経常利益

(単位:百万円)



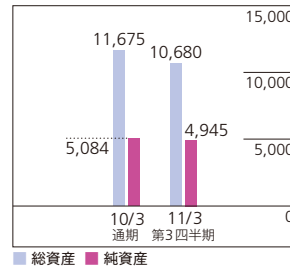
四半期(当期)純利益

(単位:百万円)



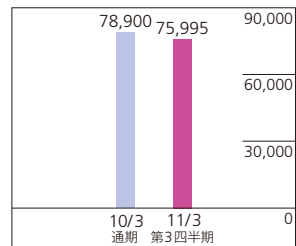
総資産/純資産

(単位:百万円)



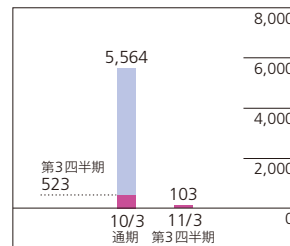
1株当たり純資産

(単位:円)



1株当たり四半期(当期)純利益

(単位:円)



当第3四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比1.6%増の99億46百万円、営業利益は前年同四半期比25.2%増の2億53百万円、経常利益は前年同四半期比15.8%増の2億64百万円となりました。四半期純利益は前年同四半期比80.1%減の6百万円です。

総資産は前年度末から8.5%減の106億80百万円、純資産は前年度末から2.7%減の49億45百万円となりました。これにより自己資本比率は前年度末の40.8%から43.0%となりました。

ソフトウェア構成・変更管理ツール「AccuRev」の取り扱いを開始

当社は、米国AccuRev, Inc.とソフトウェア構成・変更管理ツール「AccuRev」の販売について、日本国内総販売代理店契約を締結しました。

AccuRev

AccuRevは米国では2002年より発売され、600社以上の企業に採用されています。近年のソフトウェア開発で進む複雑化・大規模化に伴って、多く採用されているオフショアなどの複数拠点による分散開発や並行開発などで問題となる運用工数負荷の軽減、また開発したソフトウェアの変更(バージョン)管理といった維持管理コストを削減します。さらに、AccuRevで開発プロセスを可視化及び統制することにより、ソフトウェア開発全体の生産性向上を実現します。

三井物産セキュアディレクション株式会社、パロアルトネットワークス合同会社と業務提携を開始

当社は三井物産セキュアディレクション株式会社(以下、「MBSD」)及びパロアルトネットワークス合同会社と、当社が販売するパロアルトネットワークス社製「PAシリーズ」(以下、「パロアルト」)のサービス開発及び提供に関する業務提携を開始しました。

paloalto NETWORKS

パロアルトは、企業システムのクラウド化に伴い、セキュリティ対策としての有効性が低下した従来型のファイアウォールの課題を克服した「次世代ファイアウォール」製品です。

当社はパロアルトネットワークスと2009年10月に販売代理店契約を締結し、パロアルトの取り扱いを開始しています。そして、2010年10月から、セキュリティ専門企業であるMBSDと共同で、より導入効果の高いセキュリティ監視及び運用サービスの提供を行っています。

会社概要 (2010年12月31日現在)

商号	テクマトリックス株式会社
設立	1984年8月30日
上場	2005年2月18日
資本金	12億9,812万円
従業員数	828名(連結)
所在地	〒108-8588 東京都港区高輪4丁目10番8号 京急第7ビル
	TEL: 03 (5792) 8600 (代表)
	FAX: 03 (5792) 8700
ホームページ	http://www.techmatrix.co.jp/

Insight into the future

平成23年3月期
第3四半期報告書

2010.4.1 > 2010.12.31

テクマトリックス株式会社

証券コード: 3762

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日々益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第27期(2010年4月1日～2011年3月31日まで)の第3四半期が終了いたしましたので、ここに四半期報告書をお届けし、営業の概況と決算につきましてご報告申し上げます。

新興国経済の拡大に牽引される形で外需に持ち直しの動きは見られるものの、2010年5月のギリシャ危機以降進行した円高がボディブローとなって効いてきており、日本経済の先行きは、政治の混乱と相まって、不透明感を増していると言わざるを得ません。当第3四半期連結会計期間においても、企業のIT投資に対する消極的な姿勢には顕著な改善がなく、前年同期比では僅かに売上を伸ばすことができたが、厳しい受注環境の中、収益性の改善についてはまだ道半ばの状態が続いています。企業におけるコストダウン圧力は、引き続きクラウドという業界のパラダイムシフトを加速させています。

当社グループは、当第3四半期連結会計期間において、情報基盤事業、アプリケーション・サービス事業共に、いくつかの大型案件を受注しましたが、それでもなお、受注の取り込みが遅れ気味です。電子制御部品を開発・利用するメーカーの機能安全規格への適合が必須となってきていることから、組込みソフト分野におけるテストツールの販売は好調でした。連結子会社は健闘しており、保守・運用・監視などのサービス事業は、需要収縮による最悪期を脱し、堅調に推移しています。グループ各社ともに時代の変化を先取りした各種製品やサービスの立ち上げに引き続き邁進しましたが、それら事業の収益面での貢献は、まだこれからの状況が続いています。

当社は、今後も、企業価値の向上を通して、株主の皆様への貢献を目指します。今後とも株主の皆様には、より一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月



代表取締役社長 由利 孝

各事業セグメントのご紹介

情報基盤事業

独自の目利き力を活かし、北米を中心にニッチながらも高い技術力、競争力、成長力を持つ製品やサービスを見極め、単なる製品販売にとどまらない高付加価値なフルラインのサービスをお届けします。

グリーンIT、仮想化ソリューション、次世代ネットワーク、セキュリティ、ストレージ等、コスト競争力のある堅牢で可用性の高い情報基盤の構築をお手伝いします。加えて、企業向けシステム導入以降に必要な保守・運用・監視サービス等、システムのライフサイクル全てをカバーするITサービスを提供します。

アプリケーション・サービス事業

特定のアプリケーション領域における豊富な業務ノウハウの蓄積を活かし、システム開発、アプリケーション・パッケージ、クラウド(SaaS)サービス、テスト・ソリューションなどさまざまなアプリケーション・サービスを提供します。

受動的に顧客の要望に応えるのではなく、競合他社と差別化するためのITを活用した業務改善・コスト削減提案を積極的に行っています。エンドユーザとの直接的なコミュニケーションを通じて、業務分析、設計、ソフトウェア開発・構築、テスト、運用・保守のトータル・サービスを提供しています。

医療、CRM、インターネットサービス、金融、ソフトウェア品質保証の対面市場向けに付加価値の高いソリューションを提供しています。

当第3四半期の業績 (連結累計)	通期業績予想 (連結)	
	(百万円)	(百万円)
売上高	9,946	15,500
経常利益	264	880
四半期(当期)純利益	6	340

なお、現時点において、2010年5月7日発表の業績予想から変更はありません。

セグメント別営業概況

情報基盤事業

主力の負荷分散装置の新規販売が伸び悩んでいますが、クラウド事業者向けに最上位機種を販売する

など、新しい動きも出てきています。次世代ファイアウォール製品、クラスター・ストレージ製品、スパム対策アプライアンス等の販売が増加しました。また、不正侵入防御システム及び統合ログ管理アプライアンスの大型案件を受注しました。しかし、それ以外の製品販売やインテグレーション・サービスは苦戦しました。

子会社のクロス・ヘッド株式会社ならびに沖縄クロス・ヘッド株式会社では、ネットワークインフラの保守・運用/監視等が好調でした。エヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社では製品販売が苦戦しましたが、クロス・ヘッド株式会社との協業により、コストの低減や新規プロダクト事業の立ち上げに継続して取り組みました。

アプリケーション・サービス事業

インターネットサービス分野では、受託獲得競争が激しく、新規受託開発案件の受注が苦戦しました。

子会社の株式会社カサレアルでは、一部の継続取引先とのビジネスが縮小傾向にあります。

金融分野では、大型案件の受注により売上が増加しましたが、採算面での改善は道半ばの状況です。

ソフトウェア品質保証分野では、製造業向けを中心に組込みソフトウェアに関する品質向上、機能安全の必要性が浸透してきたことから、テストツール及びアーキテクチャ分析ツールの好調な販売が継続しました。

医療分野では、競合他社との受注競争が継続しているため、受注が遅れる傾向にありますが、売上・採算面は改善しました。子会社の合同会社医知悟は、契約施設数、読影依頼件数、従量課金金額を堅調に増やしています。

CRM分野では、景気低迷を背景に、受注までの営業活動が長期化する傾向にあります。クラウドサービスでは、売上をサービス期間に応じて按分して計上していますが、初期投資を必要としない当該サービスの比率が想定以上に増加したため、売上・採算面で苦戦しました。

売上高	6,265百万円
営業利益	519百万円

売上高	3,680百万円
営業利益	△258百万円